

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は9年間インフルエンザの発症が報告されておられません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

新型インフルエンザ第二波来襲

新型インフルエンザの国内感染拡大を受けて、舛添要一厚生労働相は19日、緊急に記者会見し、「国民の一人一人が、感染は自分が止めるという気持ちをもって、今後の流行期を乗り越えていけるよう協力をお願いしたい」と、感染防止対策の徹底を訴えた。国内のインフルエンザ患者数は7月後半から増加傾向に転じ、今月3～9日の定点医療機関からの報告が1施設当たり0.99と、流行の水準である「1」に近付いている。19日には、感染した名古屋市の80代女性が新たに死亡し、死者数は全国で3人となった。舛添厚労相は「夏場にここまで広がるのは予想できなかった」と述べ、「第1波の本格的な流行が既に始まっていると考えてよく、夏休みが明けて学校が再開されると、さらに感染が急激に拡大する恐れがある」との認識を示した。そのうえで、医療機関の負担が増して重症患者への対応に支障が出ないように、感染の拡大時期を遅らせ、急激な患者数増加を抑制する必要性を強調。個人の取り組みとして、特にせきなどの症状がある場合のマスク着用や外出自粛など、他人に感染させない対策を徹底するよう求めた

国内でも死者が出た新型インフルエンザの致死率は、季節性インフルエンザよりも高く、1957年にアジアで流行した当時の新型インフルエンザ「アジアかぜ」並みの0.5%程度と、オランダ・ユトレヒト大の西浦博研究員(理論疫学)らが推計した。米科学誌プロス・ワンに近く掲載される。研究チームは日本の致死率について「0.5%を下回る見込み。持病のある人が適正に治療されていることや、抗インフルエンザ薬『タミフル』が多くの症例で投与されていることが影響し低めになるのではないかと分析する。また、西浦研究員は「冬を待たずに日本で感染者数が増大する可能性がある。季節性よりも毒性が高く、妊婦や持病のある人が数多く重症化し、相当数の死者が出ることを覚悟して準備すべきだ」と呼びかける。

8月15日、新型インフルエンザ(豚インフルエンザ)にかかっていた沖縄県の男性が亡くなったと発表された。感染が広まりだした当初に比べ、報道での扱いは少なくなっているが、通常、インフルエンザは夏に終息するのに対し、新型は感染力が強いため、現在も全国で感染者数は増加しているという。職場で感染者が発生した『やきとりねね』のブロガーは、「それにしても対岸の火事くらいな感覚だったのですが身近なところで起きてし

まいました」と、突然のことにびっくり。また、『LOVELIVELIFE』のブロガーは、家族が感染したことを会社に連絡したところ、自分自身が発症する可能性がなくなるまで出社してはいけないという事態に。「会社で広がって業務に支障が出ることを考えたら、自宅待機と言い渡す会社側のキモチもわかりますが、(中略)発症してもいないのになんだか『家でじっとしていないといけません！』みたいなのはキツイですよ」と感想を述べている。感染しても、ほとんどの人は軽い症状で回復するというが、地域や年齢にかかわらず、身近で発生しても不思議ではない状況になっているようだ。今後、インフルエンザウイルスが活発化する秋冬に向けて、新型の大流行も心配されている。大騒ぎすることはないが、「『新型』と名がついているように、未経験のウイルスであり、決して侮ってはいけないと思います」(enjoy)と考えておくことも必要だろう

世界をゆるがす新型インフルエンザ。第一波の日本国内感染がピークを迎えるなか、世界の警戒はすでに第二波に向けられているようだ。第一波は、感染力は強いものの致死的なウイルスではなかった。しかし、第二波はそういうわけにはいかないかもしれない。各国で、有識者が過去の事例を引き合いに注意を呼びかけている。というのも、来月から南半球は冬。今回の新型インフルエンザは、季節性インフルエンザウイルスとともに南半球を回る。この新型インフルエンザウイルスが、ふたたび北半球の冬に戻ってくるとき、どのような変異を遂げているのか？ 予測できないのが恐ろしいというのだ。ウイルスは変異が激しく、容易に抗ウイルス薬に耐性ができたりする。**第二波がタミフル耐性を持っていて、致死的になっていたら、ひとたまりもない**。「Sasayama's Weblog」によれば、1957-1958年のアジア風邪(H2N2)パンデミックでも、第一波よりも第二波のほうが被害は大きかったという。各国での警戒は、第二波に向かっている

* 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部
笹川 透

03-5337-8860 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。